

普及活動情勢報告（令和6年6月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

土壌病害の対策をしよう！

～バイオフィューミゲーションによる土壌還元消毒の実証～



カラシナをすき込んだ
ほ場で被覆作業を実施

6月12日、四万十町松葉川地区で、バイオフィューミゲーション（生物のくん蒸）実証のため、カラシナをすき込んだほ場においてポリフィルムの被覆作業を行いました。

バイオフィューミゲーションとは、カラシナに含まれる辛み成分により土壌病害虫の密度が低減される現象で、実証に協力していただいた生産者からは、「今後の土壌病害対策の1つとして期待している」との声がありました。

普及所では今後もショウガにおけるバイオフィューミゲーションの検討を続けていきます。

土壌病害に打ち勝とう！

～米ナスの青枯病対策～



青枯病菌の密度を調べる
ための土壌採取

6月13日に四万十町十和の古城地区で、露地米ナスほ場での土壌還元消毒を行う事前準備として、農業技術センターで土壌中の青枯病菌の密度を測定するための土壌採取を行いました。

このほ場では昨年度青枯病が多発し、実証農家からの「青枯病対策を検討してほしい」との要望から関係機関と協議し、夏場の高温時期に有機質肥料（ソイルファイブ）を活用した土壌還元消毒を実施することとなりました。

今後は梅雨明け後の土壌還元消毒に向けて、準備を行っていきます。

昔野菜を次の世代に引き継いでいこう！

～昔野菜の種取り体験授業～



昔野菜の種取り作業を
体験

6月20日、四万十町昭和小学校の3、4年生5名を対象に昔野菜の種取り体験授業を開催しました。

十和大道地区には、「昔野菜」と呼ばれる大根、蕪、高菜等があり、平成29年から地元農家や野菜ソムリエなど地域の関係機関と小学校が協力して、「昔野菜」を次の世代に受け継いでいく取組を行っています。普及所は、学校と農家、関係機関のコーディネート役を担っています。

今回は「種をつなぐ意義」を学び、昨年収穫しておいた株のさやから種を取り出す作業に挑戦しました。今後は、9月に種をまき、年明けには収穫、調理実習、地域での販売体験等を計画しています。

今後も地域に伝わる伝統野菜の継承活動を支援していきます。

普及活動にご意見ください！

～高南地区農業改良普及推進協議会を開催～



普及計画の概要を説明

6月21日に農家、関係機関約20名が出席して第1回高南地区農業改良普及推進協議会を開催しました。

普及所から令和6年度の普及計画の概要を説明した後、新規就農者確保対策や環境制御技術の普及推進、基盤整備事業などについて情報提供と意見交換を行いました。

若者の就農対策では、「今の若者は個人の経営が主体で、地域農業への関心が薄くなった」「ハウス資材高騰で新規就農のハードルが高い」など現場の厳しい状況に対する意見がうかがえました。

普及所では出席していただいた皆様の意見を参考に、今後の普及活動に繋げていきます。